中村俊定文庫
文庫 18
31
2

發句帳 冬部 上

題

初冬 一
殘菊 三
木枯 五
冬月 七
時雨 二
落葉 四
霜 六
寒菊 八

冬

初冬 才一

神無月山さとあらぬ葉もなし　宗砌

うゝすつきしるもさびしき夜の雨　宗祇

秋の色残るもあはれや神無月　同

神無月うつもさびしき松もなし　宗柏

うもむ江乃山の陽さしもうつき　同

かゝるつきやあらぬ乃うすくもり

中村俊定文庫

神やしろのこのもとのつき　周挙
神無月みなとの入江の船　同
うらこがらしさむき夜の船もとまりかな　昌休
神無月ちるよなれさのうら紅葉　宗養

時雨　廿二

紅葉ちるをりをりとしぐるるか　心敬
いまもやまとしぐるる雲のふりとかな　政弘
河音も山もとしぐるるたそがれの　紹鷗

山紅葉ちるをりをりをしぐるるか　宗砌
みやまもとしぐるるよりぬあしの山
たちかれすも猶月雪あるけぶりかな
ちらすなよ深しぐるるたもとの紅葉
うら紅葉あとの落葉のようるるたもとかな
たもとの紅葉さそふ色のけぶりかな　心敬
雨ふるまのうらもとしぐるれ　宗順
さくらかりそ月とすすくしぐるる　心敬
川音もなしぐるる雪のたもとかな　忠哲

うきをもうつすめくりもとの時雨かな
むらくもの消ぬまもなくしぐるるや
とまるとみるや落るもみぢ葉
神無月雲やいくとも見えもつる道
うもれて山もとくもるやもとれる　同
秋をめぬ山もありけりや初しぐる　同
深くそまりしまるる時雨かな　同
長秋をさそふ乃もものたとれかな　同
めくりもて新をたちて月日かな　同

宗祇

雨いつまとうきをそたちもれぬやまもと　同
静かなれめくりそさくの松の姿　同
ちりぬるをもうとしあさたれ　同
行さきしへなれも移ぬるの時雨かな　同
動しも移ぬよたちて軒端の姿　同
あるとして作しまるる
なるとの素の時雨よりも新うの姿　同
あるとしてうるる
松風よりもを時雨ふる新うの姿　同

みそそぎとなれさらぬ風乃松　同
時雨ゆめまぼろしの雲　同
とゝろふ時雨そまつ色　同
あまもとのしたのたれや雲の笑　同
あくそ橋をたゝ乃たれる　同
いとゝよ松も時雨ぬとゝろう郭　同
松乃美よ如ゆ世をゝ時雨ふ　同
つちとれもうとゝぬあやや一たれ　同
物ゝ雨時雨ゆゝ月とゝ郭　同

と物をあれ新そ月のゆゝれ　同
ゝとゝ雨ゝ時雨乃赤信ふ　同
ゝそれゝ時雨とゆゝとふ　同
たれすゝ雨そのゝけき郭ふ郭　同

東よゝゝゝ時雨ふて

ふゆゆゝさゝよたれ乃ゆゝ郭　同
たゝゝゆとゝゆゝたゝよふる　同
ゝゝゝとゝふ雨とゝる時雨ふ　同

白川乃関ゝて

神ゆかしき時雨とせきの山路の秋　同
そそぐみよしの山あらし　同
ふるかぜもまつよりとこそ山のうち　同
とぢぬ山ぢのあきのもみぢは　同
やくさもしきゆきやとをしの朔　同
ひとゆきたりしあさひかげ　同
ふる根をたをるもあるのもりこれ　肖柏

田舎ずまいの乃ちより
おもく山やまのの屋ぬしの初時雨　同

あらしやんくのもりしくれ　同
星なれよ亦西乃あるの初しぐれ　同
夕月夜ちりまよひしひりうか　同

拾別紙拾弟月の雲とうかるまて
あけあらし時雨のあとの乃雲　同
松乃葉ふるまれをいくあひ初しぐれ　同
天満天満ふるまよ
あるとりいろふくれ乃一歌まち　同
尾張にて

浦づたひ舟とゝのへて乃まうる　同

清水寺乃ほとり

陸奥の国にまかりくだりける時　同

交野の御かりしける日の夕暮　同

ひぐらしの鳴をきゝて　同

ぬまのほとりにて

すゝきをよみて　同

いなのゝ野にて　同

いなのゝ乃やとりあるぬまのほとりにて　同

霧ふりて

月をあはれとおもひ入て初たれ　宗頼

日すゝきの花や一ぱのもとの時雨　同

月をあはれとひとりながめあかし　同

雲のうへいくとせをへぬ乃つきの月　同

ゆく末乃たのもしかれや家乃私　同

秋乃月ひとりてのゝよ

ひとりとも乃りひとりとも乃たのもしの　同

行路にて

さそふこそ風にきしかるしくれ哉　同

くもる日の身のありかほなる初時雨　同

ゆきゝ山のはやたちやこゝろのしくれ　同

さく乃葉のそよと時雨そかりなし山家　同

粟田瀧坊にて

海寄やこゝろ初し世のしくれふる哉　同

あくとかん紹鷗にいそきわしくれ　宗牧

定家世のをともくるゝぬ時雨哉　同

ふりきて下宿もゆくてのしくれ哉　同

しくれ乃よそそよ常にしくれ哉　同

めくるまやあるそとまいそ夕時雨　同

山風乃たよりもなくさぬしくれかな　同

やまみの乃とともへそめしくるゝ哉　同

冬きりて月にかゝりく時雨かな　同

またさふみくり月ともきこえさ時雨　同

松乃うをうつゝつまし紀時雨かな　同

萬人をね松や知人もつしくもゝ　周桂

めくりあへ阿部もしらしくる時雨　同

あさ[illegible]山やしくるゝ冬の初しくれ　同

めつらしとみむ月よりもしくれかな　同

雲のゆくへをとはしくれの軒端かな　同

和漢　昌休

夕日影さすとも山のやむしくれ

風のをとまいくむしろ時雨ゆふの松　同

山もとをしくれをそくる夕日かな　同

無庵にて

うつろふも山の秋のしくれかな　同

旅行人のとをみ奥行

都をへしくれ中ゆくや山ちかな　同

於傍

いその松しくるゝや時雨し松に浪に　同

書写山十地坊興行　南山白雲穂親

懐旧

ちる雪乃ちるも行ようつる夕時雨　同

夕晩色の山風いつもさびしく秋　宗養

空そのれてかゝる山さしさむし時雨かな　同

[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同

[illegible] 同
[illegible] 同

十月ふ

[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同

春ごろのあけぼのみてくらす時雨　同
ゆくとんしぬるころの松のこずゑふる　同
さびけすむ月やんのさゝらんれ　同
雲の美よさらぬや朔旦の空　同
引月のそじやとゝろの夕ぞれ　同
うゝ世うか月前てゝりさゝれ　同
月ゝゝ時雨やさゝの山あゝ　同
さて月ゆく高ゝろく時雨　同
わきて引袖や宵ゝ稚ゝれ　同

ゝてゝ月やゝ春ゝすゝさゝれ　同
ぬゝれきて月ゝゝ山ゝ　同
時雨さゝ月ゝゝ沈たりゝ那　同
沈ゝくのゝゝゝゝ時雨れ　同
とゝ宵ゝ人ゝゝゝゝれぶ　同
うゝゝこの沈ゝあゝ時雨ゝ　同
ぬゝれゝ雨雀ゝゝ宵ゝあゝ　同
めゝゝゝや宵ゝ初ゝ　昌吃
うゝゝゝと世よあゝゝゝ初時雨　同

先母より譲られて
まさかさん人参種乃ちぢれる　同
たち彩端先ちりてうるさきちれ　同
昌休丈三面子白米九両
しの天れいつを出たりの文ちれ　同
将別中端高ち重人居住の所お絵
奥別
ちくやいふ書れ　同
小野月次

ありちるえ海とのの乃ち所毎ち郎　同
まちされ屋ちとちちへてちちれ　同
昌休五十ち忌お私宅
めちちちやち文十乃ち変れさちれ　同
不解ち使面乃
ちちちちちの歌まの所毎ちふ　同
江別ちちて十二月八日
絵ちちちちぬ別のしれち郎
お大坂　雲仏

潮のくまとゆきるよやまちとれるる　同

殘菊と

霜のうつりゆくとうちのうの海のさうか
色のものとうつりゆくとうしゆやうきうる
さいてうの秋のうちのあきをあきく　宗祇
秋とまてさくやたつ寒遊のうきく　同
さうの寒やあとうとうとの香の枝　同
うけや秋のうふあらねうのあ　同

ありうとうとくみうするうふ　同
冬やうれうのうのうのうの遊　同
山程のうを花とあの菊の海のうふ　同
こかうとうとうとうるうくの白しふ　同
うのうのうてうくうのうて神無月　同
うのうれうんむうく紅葉のとうの遊　宵物
生葉のうとうていれあ色や遊のうく　同
とうのへよ菊うくやのうの紅葉のうを　宗頌
みうてのんうのうの遊てふうや菊の菊　同

冬ごもりぬさくらの花乃盛りを　　同
さくらの花もさかりなりけり　　宗牧
みるとはなしに春乃暮乃　　同
さくら咲て春をそる遊ハ　　同
雪ふるもはなのさくハ白川の　　周桂
冬ごもりさくらの花ハ　　同
ちるを井の水乃ながれ　　昌休
秋くれなゐ紅葉ぬさくの　　同
さくハなとうりハ　　同

雪や花さうりとそ　　宗養
のこるさくらの花ハ　　紹巴
ちるぬそ冬ハ紅葉乃　　同
雪くの雪ふりハ　　同
冬乃花乃さくらの遊　　同
冬ごもりさくらハ　　同
冬ごもの雪や花ふる　　同
秋とそ紅葉冬のそ乃　　玄仍

歌集　四

ちり拾くふくしのうちに紀りの紀ものくつ
すくりの紀ものくつ
神云月この月ん三しの物ち紫
鶴乃羽をつまる紀いもの乃もみちの
やうをふくしる紀流の物ちるる
松風ちらぬ木紫乃ちられう那
ちるとも紀呼ものりくへともみちの
ちみちりはを雪はけ乃ちれの
物ちるかあくし乃木紫雪乃ちる

心経
同
智蘊
同
同
当代
宗物
同
同

ものまもて遠くりちふ乃りみちの
うちるつさうさうして遠の物ちる那
木乃りくよかさひて雪乃物ちる那
とく雪乃ちくそめたりし義紫
木紫より呼ものなりぬ山物ちし
ちやこして山風ちねま木紫う那
ちりちくさちるこのもの呼ものれ
木紫ちる海くさいるる乃ちちるる
風ちて木のもとめくる物ちる那

京巻
勅号

菊とうつ水乃紅葉の色くれなゐ

尾よりも鶴ちるもつゝ乃下紅葉

苔のきく散ちる紅葉や庭のたまり水

いはくちの紅葉ちる浅さゝやま水

かゝる比紅葉りたる入舟ぞむし紅葉哉

ちりしきて風や山をもとむとうり人

ぬれし秀乃紅葉のみちしそめつゝさ　宗祇

まれもとてちるなをとり乃錦哉月　同

比ちるなる紅葉の乃うつさ紅葉哉　同

色紅葉あくしよちうつき紅葉哉　同

木くもひの風の色よくちるまの紅　同

ましそ散まよや紅葉れのうす紅葉　同

そめくてちるも時雨の紅葉の雨　同

深き秋のたそかれよりそめ紅葉哉　同

ちりうむしる紅葉の雨のひかしくれ　同

ちるとともそあゆよし雨の露紅葉　同

風消えちるよりすゑつき紅葉哉　同

ちらすゝよりの一や深き下もみぢ　同

[illegible]ぬ[illegible]の
[illegible]の[illegible]
吹[illegible]と庭のあさぢふし
風やちる[illegible]の[illegible]
[illegible]ちる[illegible]
[illegible]
[illegible]の朝戸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の滝の声
[illegible]の[illegible]
[illegible]

住吉にて

いく世[illegible]ぬ松の下[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

初しぐれすぐるあとをとはれぬ風の音ばかり哉　同
冬ごもりうもれぬ神をあらしの音ばかり　同
うもれてさかぬ花の梅ばかり　同
おもてめづらしぬ春の梅ばかり　同
さつまをとひさぎの音ばかり　同
初しぐれすぐるあとをとはれぬ風の音ばかり　同
嶺の雪の音ばかり　同
あさぼらけ小竹しのの音ばかり　同

雪の朝の音ばかり　同
あさぼらけ雪の音ばかり　同
いろいろの雪の音ばかり　同
あさしもの音ばかり　同
ふるさとの雪の音ばかり　同
雪の音ばかり　同
遠風の音ばかり　同

ゑくひすく風も聲きの春霞か　同

花ちりすゝえも涙のこゝろそこれ　宵柏

ちるゝ花や河内をとゝのふ霞　同

河州茄延にて

うき花よりちるや春霞乃ひかれ　同

名にしちえちゝもさそてねかみちふ　同

神や春月ちりひのくちとみちるる　同

河州一更乃とき

ちりてちく紅葉やこゝろゝ錦　同

よるや霜わりみちを峯の鶴かし　同

箕面山にて

名こそやしの紫もちの瀧その名　同

ゆふやなまれりともしろ代夕嵐　同

ちるしすみ風もさらん春霞か　同

出雲寺會に

ちるとやすみもむ山のこのそらか　同

高雄にて

春霞みさそとせぬ富の梅そへの那　同

乃ちをやらしそ

つをやをしかのあさけの霧の底ふか　同

四月十日ふるとしのあさけ

長雨はれて

あをあをとあをしの本葉いそ多　同

指別ふそ名の柳ふり行よ

あをとりはよちをやふるの柳ふり行事　同

月和歌うを行その名部屋者乃

名号とうしよ和その連奇よ

名やそ世よちの霧よ　同

ちりよりてやふるねとれ　家頼

風あけそ京ちあそう那　同

とりてあしを名ちうんくを霧　同

神去月をみちをさ入ぬ名ものし　同

たりおを海所

ちりしすふ霧よあけしうば　同

名風乃あをふのをくを本紫代　同

永閑を安退の名連文

わすらるゝあわれをそのみちに　同
月をなんて紅葉ちりふる本ちる郭　宗牧
そゝそゝもあけて嵐のこゑ　同
紅葉をもとゝねぬ鹿の声をきく　同
ちらて散る家の名をおもふす桂　同
御簾ちり濡てくりみちに　同
ちるものつる私もをみちのちに　同
行さみとり水をとてをきおちる　同
ちらてい杉葉よとちる夕つゝい　同

本葉ちまかゝとちまし紅葉ちに　同
うみちをの中れを猶ひ本ちる　同
ちりる紅やをあはくをふの樹紅葉　同
ををををへらひの雪ちるをみちに　同
ひろふまをてををを紅をのあちをる　同
葉のをる一本やををのをちをみち　同
ちりて紅ち宝れををる紅葉をる　同　周桂
紅葉をの名の一むをあを見　同
神も名をちをねをぬを杉に　同

かちとりやとりもちあれ神無月　馬休
心あのあちらやなたをたのさうり　同
　若の宮月次始
とうきたれ本祭りとられの朔日ハ　同
　山崎長芳お御陣所
春のなたちとりもちさちのハ　同
　沢子若木桜のありとて
ちらえまとるやうらうきのとりもち　同
　勢州山田長代蔵弘章退喜島ノ

のこるなの月十日忌日冬
乃て秋も若よりちらの雪ふれ　同
　国月よ
風ふきて海と赤の墨の神無月　同
ふとそへて下帯のあとをさかりとれ　宗雅
かりとそへ根ふのへるとを衆　同
ふてあてちまを海ふ一ふ遊やうす柘　同
りあるようす若かりさかりとれハ　同
深とそふ一時あとそへ本祭うふ　同

岩もれて苔の下くゞるおちもみぢかな　同

うつろひまつもくさ宮乃下紅葉　同

またむかえんとて柞葉の山錦かな　同

さるかたに世とさや川乃紅葉かな　同

橋のし霜まつわたらぬおちばかな　紹巴

松むしのちからなくしもみぢかな　同

ちる方をまた紅葉とてふくやらん　同

わらんぢまき本宮なしや八下のみち　同

おちばくとりへさへ見えぬ紅葉かな　同

錦乃にしきのちりくけりおりしきおちばかな　同

ふくおろしの露みてそむくらし紅葉かな　同

おちもしてはすとま入江の木葉かれ　同

落葉していくしもの末の冬紅葉かな　同

もみぢ葉のあかれちりつゝ竜田川　同

霜乃上のおちばのきえてとまりかな　同

やまし八月おちばのくさもさなかな　同

くむ人のあとも古井のおちばかな　同

雲もちりもみぢや山乃苔の色　同

冬てあらし風とうしこのあらしをぶ　同
あらしをやをとあらしの山のうす月　同
あらしてはしりれあしこをとをる　同
ちりしるあ紅葉やうをとをし　柱　同
りみちしのしこ山をつむ汀うか　同
あらしをあ紅葉ちく岩風乃ちしの紅葉　同
をしをうひ赤紅葉よあれあしうの邦　同
ちりてをしめをあのやをしの紅葉　同
山や岩あら紅葉乃をしの鹿ちあり　同

あら紅葉て岩よあらしの山をれう邦　同
ちらしてをしをやうり乃中宵　同
をうり月をあしこの乃紅葉うか　同
ゆうあのをしみをんひうをしうれ　同
人も世うりあ山をうり紅葉　同
をうりをを月をあしを乃赤うか　同
をしへをもをう紅乃をしこひ赤紅葉　同
ちちをうりあしひ岩乃をうり　同
松あ山や赤紅葉を海うりやを白巳　同

枯れもあへずちりまがふ風の音かな　同
このくれぬしのあとをやこと心得かな　同
さそふとてこれ雲ととのさおちたるか　同
紅葉ちるかとみえて雲行末の紅葉かな　同
ちらぬまの池のそこの紅葉かな　同
あのもちをやくこのあまやとり　同
あのをとのうとあらしにちる紅葉　同
と約のうれあちらこそ紅葉　同
月紅もあらしふそくに苔紅葉かな　同

紅葉ちるあらしの風の強くあるる　昌叱
昌休花みるとうりはせよとうらえ　同
ちらすあらしの紅葉とあるこの夕あし　同
このをとふかさまの風のちるこのか　同
紅葉ちらぬまをとあつくあらしかな　心茶
みちをあくこのあらしの本紅葉かな　玄仍
高雲眺望
みちをちらひくこのあらしの紅葉　同

夫木抄

こゝろとゝまるよへみしぬるみちくるふ　改定
あらしやそらのなぬきをれのちるあ紅葉
こゝろしのあさいりそのちるさくる　宗祇
あらしのあけぬ紅葉の音の那　同
こゝろとゝまるよへて紅葉の秋月色　同
あらしにあさくるものあしふ　同
白河のをれのうへ

こゝろしよりあり那のあそう那　同
こゝろにあくやあ紅葉のもつけ　同
懸別若松とい所にて松の葉あるを
ひろて
陰ふ世を思ふしのいそ松　宵相
あらしの中にくもるよの松　宗牧
こゝろしのひもとしのひさうふ　同
あらしのをふ入の夕日の那　同

こうしやうの紫のこすゑ　昌休

越前白木奥りの

ちる雪はいやとしのそれみへうか　同

風をまつやさそひしてかすそ　同

書写山鶴象坊にて

こうしもふりしの岑やむしろ紫　同

ちるしやわらそひしそもの風　宗艮

山の名をちるしらねを紫うか　同

ちるしの温をうとれそれれ　同

ちるしらぬ頃やわらぬひの松　紀也

初しをのちるしと雪のちるおも　同

ちるしの名をちるまをり園の竹　同

本結りちまとれ西海の月か　同

こうしよ絶しるのむやまのもう　同

ちるしやはくふうをの聖人の松　同

西海源氏竟宴りの

こうしもちるねをの毒の月　昌吼

霜 六

柳葉のうへにさくや八重川の霜の花　宗砌

ふるしの霜のもりそやあけぬ　同

あさぼらけ霜ふるしのやの雲　同

霜つもる住吉の松　宗祇

見てもあかぬ霜の本葉の郭　同

月とともにて霜やこしの遊の雲　同

夜もすがら霜の白うか　同

とさしつる霜の八重さえ朝月かか　同

初霜のふれもかはらぬやさき　同

霜さえし月やかはるもあまの　同

本くの霜こりのひかりかな　同

霜さえて松の葉ちるあさひかか　同

とさしつる松のうへの雲　同

ひかりそ霜今もりいくよ霜の雲　同

霜とあれやうのすちの法　同

[illegible]れよ秋松　同

[illegible]やいかまさかの[illegible]のおのの[illegible]　同

[illegible]海[illegible]秋[illegible]の[illegible]　同

秋あさの月よ[illegible]の[illegible]　同

[illegible]ら[illegible]秋[illegible]くひさかれ　同

[illegible]井[illegible]れて秋[illegible]ら[illegible]の[illegible]くあき泉　同

[illegible]秋[illegible]乃[illegible]

秋乃松[illegible]たくしら[illegible]ち[illegible]　宵松

あしひきの月やいかねあき乃秋　同

[illegible]紅[illegible]

秋あさの[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　同

さくの[illegible]の[illegible]たり乃秋[illegible]　同

海色[illegible]

[illegible]秋[illegible]よ[illegible]ら[illegible]く[illegible]の[illegible]　同

八[illegible]秋[illegible]を[illegible]の[illegible]　同

秋[illegible]ら[illegible]く世乃秋[illegible]ら[illegible]乃[illegible]　宗長

[illegible]や[illegible]く秋[illegible]遊乃[illegible]　宗頓

ひとくりの露とりつかまきれかな　同

法師名くれそ

あさ露や世をすてゝさへ露はれ白ふ　同

たゝすまくらは八重葎の露のうちに　同

くさひの名残し露扇のわさくかり　同

露のまや穂末にとまる萩の声　宗牧

神松の木の露本の浦くしの飛　同

さくへね世や露乃行きものまゝ　同

露のまさえ夕月のあしの切のうに　同

ひとりそふ露やはちすのまへつまさ　同

露いくよちる空それ中のまゝ　同

花おもりそ切りおん露乃まくしき　同

色のきさへ露さく萩のうき葉に　同

月や露あくしのうら人乃影の松　同

志ゝもやさくあらしおりさわしき　同

松乃ちのゆふさかいくへ宿さ礼露　同

朝露乃志らくさわゝさ白秋に　同

ちさりそく露や霜とむ岩の松　同

さくれいとうのうちの水　同桂
あるさてちとをとるめるく時より水　昌休
右別清晴婚間内荒助西室子白十二月
奥りとて東一清水
ちとをまの秋ちら桂よ事や秋の松　同
八幡うて
さくれ所しりあるさ事ひ間と　同
同品東の西をまを紙一白うり
事ひいくくをとりしくをとの品清水　同

但馬湯山うて
若さもと事さくくう出湯のうか　同
なく露やよもちらねと釣の事　宗養
あさしも秋よあしの貝秋ひ　同
ふまやこの雲のうかけされ事　同
くちねのや事とちてねを白まを　同
あさきすちや事秋の天蓮　紹巴
事ちうし月やうをそ川　同
くを事のとれりまうるる　同

梅ちるとあり法く　霜乃晩の雨　同
霜うりゝとも紀の先く冬風　同
ちとのくみさうりひさしき　冬ル　同
そうちうちしたもの時さきの霜　同
袖の霜とけてあるものの夏もうか　同
ちとの光ちとけよそうくさきル　同
霜あさの野ともちよまちさ水霜　同
霜とけて淺茅のうそ冬登ル　同
霜ふ人ゆ〻梅ハ霜とか　同

法のおかゆのまとむ霜とか　同
民部法華奥行
法ゝ人ゆ乃あ霜ゆうそ丸霜　昌吨
遠著
ゝゝの〻名残ゝ霜の桂ゝ今ゝ　同
遠ひろゝ霜のそゝ紀て第長　玄仍

冬月　七

月とゝ人とあぬゆ乃冬のこゝとあうか

月とも文本懸りぬ中海おもひそ那
川舟のうら色なる月のこほりけれ
名所さへおとしの月のあとにりけ
さ絶るゝ夜も風と月とはなりにけり
月やとも物忘れてものこゝろすゝ
名もう秋ひとり入るの月さうれ
寄りかくて月見まうるてひとりける
日もさえなは月見る海のひさすみ
月遠しも雲や山の水拾ひつゝれ
宗祇

虫くだら待宵の月さそひけれ　同
月は今まつとともやそひけれ　同
志るらし山紫らく空乃月　同
月や志るは海のよの中つ達　同
流しまてらし時
いつまでん节屋の月乃拾ひつれ　同
月うらしくともかせみて夕附夜　同
名残こうとみつまも月なき茶気　同
さそのかり月をま雲乃さうはうに　同

月をふる雨の音のあはれ　同
月をまつ山路の秋のひとり旅　同
雲あるさの月をとゝのふ　同
月をえて光りをふるあしの葉　同
あけて月をまつ夏の夕ふ　同
新のうぬ月のもとの色　同
のゝうゝあるてやうゝ月　同
ひかさゝ月をあるあさの色　同
雲より月をまつ八重さゝ　同

下ばさの系にて　肖柏
玉ゆのこゝろやゆのあさゝら
恋ゝをまつりしは
さゝなるやこゝろハ月のゝゝ　同
草屋にて
月をまつゝゝゝゝのゝやゝ　同
さゝゝゝゝ光りて月の朔　宗長
月さゝゝゝゝ陸ゝいその雲　宗碩
雲いゝゝ陸ゝてゝゝ夕月秋　同

新古今紀あり　　同

月のうち雪ふりかゝるか　　宗牧

月ゆくあまの雲ぢ　　同

むらくもとなりて雲ぢ月ぞ　　同

夜新のむしかなきしきれるか　　同

雲ぬきとなりて月のこりるか　　同

あるものあやもむ月のこりれ　　同

月をとむらひやあしの初ちれ　　同

ふむ沢もわゝ八月の雪ぬる跡　　同

雲ぬき月のうちとりうる跡　　同

夕月よやうちのくもりたる　　同

てる月のうちやふるる雲ぬき月　　周桂

うたりゆく月あ雲ぬき夕ぬし　　同

あく風のとゝりさむしうのつき　　昌休

さえうの雲りむ色ひゝ雲の雲ぬき月　　同

色後の後入乃雲ぬ

雲ぬきて月とうのこりるか　　同

吉川奥州

新月むしろをさしてうかぶ　同
やまうちの月をまちてやむしろをれ　同
新月ゆりもたそぬあるあるあり　同

嘉吉元年九月十四日紀伊国名草郡
月をまちて　同

月みてさえんとすれば新うのまつをを　同
新月の月をまちてよ海ゆかふ　同
あらしふかりハ月のひかりかな　宗養

新や松をあらしの月色　同
月をまちさはやかなれば庭の雲　同
ゆうすずみして沢のあさもり夕月夜　紫色
雲やいつのちうしの月のよそ　同
うしの雲ちうやうの中ふくよ　同
月をまちかりをまちて雲井うふ　同
月をまちてうしもたうて松の色　同
新さむし　宗やあ松くゆふくよ　同
名をあうし秋ちうの月の松をうの郎　同

はるかなる時雨の雲のうへにのみ
月をまちてやもの思ふらん　同
さらでだに月の秋
さらりわびしやなのうへのつき　同
雲のうへにてもなほ
月をのみながめしるかな　同
月をのみながめしるかな　同
おのれ心ありのの月をみる
こうしの月よりあさ入ひとりの秋　同
雲をうつ雲をうつひとり月の秋　同
雲をうつ雲をうつひとり月の秋　同
雲をうつ雲をうつ月の秋　同

世の人のうつろふ月のしるしの秋　同
春の秋のかさなる門やあさぢふ　同
雲は月のひとりぬるかな　昌吟
月のうらは世のうつるかぜ　同
一ぢつく月をつくるみぢうの秋　同
月をうつらは月をうつらは　同
松風に月をのこるそうの秋　同
雲に月はさしくひくくもりそめ　同

月餘十月末日、お照る後夜

くらさりてとまりぬる月のさし出る　同

寄草木八

袖とまるとは為るものろかは草の部　改弘

寄水川とはさしもしき草原の部　書外

朔寄乃草祭うとこしの日新しれ

法あとしくふるこしの意の草

経やうみをまあとさ松乃この事

袖とをさて寄八うまれく物うか　宗祇

めうまあとまうろ乃ろのちさ　同

あこうりあさうまあ草れ多種所　同

清ふとをこをあのとさいこのの　同

ふとうまや袖とをさて乃むう為　肖柏

沈あてふあてちこのうまあうか　宗牧

みこうれも藤こえういや聖人の家　昌休

夕日さしうまあや寄草とすまこ草　宗養

ふとふうう物寄てこうさしもう　同

ふあううぬ草とめううまあ聖　同

なのそこの乃ちつくあらしふか　同
冬ちんのあさりしろしもとそれの郎　紀己
かまのうらすくこうりやタ月和　同
うまつくよとふを浦あらしはつらば　同
かまぬ根をとらさんまこすれ亜九松　同
うけやあ冬和まよくきのふことり　同
かまとそそいつくあらちくりの浦　同
冬和りあ冬ふうこうあ冬郎　同
あ径くされ根よ入とあやあことり　同

かくやも寒乃くらちぬ冬雪うみ　同
冬寒れ陸のくくなくちくれの郎　同
あ山寒りまそくとくれし浦とは　同
寒寒をじをふくあくき冬雪　同
くきくの根ふうき雪八冬雪うれ　昌吧

心前三回忌

とふ浦やりまぬあれ乃雪あくう　同

ふるてゆきのうすきかの邪　乃定
滝乃とゝ八こゝろぬ松乃めしゝゝ　宗俊
ゆもとゝ八ゝ邪ちるさこゝろれ
山ゝ乃こゝろりとゝ八ゝ邪
こゝろ邪や山とゝあゝひ乃ゝりゝ
ゆらしゝあゝしにのゝゝ松の枝西　実躬
とゝ邪んゝやさゝん邪ゝ八落ゆ
いまゝしゆゝこゝろゝ山乃ゝゝゝの邪
ぜくゝゝとゆゝゆゝかゝてゝゝ邪　宗俊

ゝゝや雨ゝゝゝさゝ色乃ゝさゝゝ　同
夕月夜ゝゝゝしゝゝゝゝさゝゝ　同
うゝゆゝゝゝゝゝ谷乃ゝゝゝゝゝ　同
ゝゝや月ゝゝゝこゝゝのゝゝさゝ　同
うゝゆゝゝゝゝみゝゝ邪ゝ邪ゝ邪　同
一ゝゝ邪ゝゝゝ八こゝゝ乃ゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝこゝゝゝゝ邪ゝゝゝ　同
ゆゝゝひゝくゝゝ邪ゝゝ滝乃ゝゝ　同
さゝゝゝ夜乃川ゝゝゝゝ朝ゆ　同

門をとをしあらまつのあるを　同
うつしとをとをしあるはこのかたのあるを　同
おくらし侍りあるを　同
ふるさとをとへはこたへもあるかな　同
小野社参詣連歌に
りうこうねこりりやりこへりや門　同
ゆきの湯ふりすてゝ乃ちとを
はこりうこりあるやゝさ出湯ふ　同
岩屋にて

うらなくもおもとあるかな門　肖柏
いのをとの幻繁ちらめ落こりり　宗碩
流とのあらしやうまれあきらかり　同
なく一定月やこりしさを水　同
高瀬川にて
おもしけや清ちるなれ釣こりり　同
月乃行さあやふのくかきこりをを　同
ちらいをとをひをあやいく流明水　宗牧
江乃あうをこをこうをしをしの行べ　同

さてなほ乃極く世話のさぬう郎　同
ちりもあやちりをもとふ法乃山　同
芦はたく乃うちしひまを拾乃郎　同
極く月とあらをむとふこりる　同
世ちりう神やこりぬあちこ法も　同
多乃もやむとらぬあ乃あさ法り　同
夕月夜をさをて水のこりうれ　同
ちりう流をいつくやを門あさこりり　同

於吉根

おさえうすうちりあ芦をうれ　昌休
田舎元器入乃奥り雨ふりぬをて
湯殿河ちを亭をて
ゆとあん水乃を紀りり水う郎　同
山陽りて
川をやこりりてをるゆりりを　同
うすゆ赤芦をりゆむとふ芦う郎　同
ちりあと乃極をえ乃男こりりふ　宗養
うすゆ赤ゆ芦ふうを貝紙う郎　同

ふる井のあるじハ
こゝろあるよしをとゝ
りみるやきさらぎ
河風をちかぬ
こゝろ川ゝ
めをとり乃浦や
江乃こゝのこゝ
うゝをやこゝ
あゝふくじも

同
同
結巴
同
同
同
同
同
同
同

めあるそこしゝ
海のもゝ
とゝこゝ
石川やあ
くもそこ
乃かりし
庵入こ
くもゝ
春乃浦こ

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

うんさんこうの山ゆくてのうちやを川　同
あるんゆくてこちらやまの一しあさみ　同
武乃ゑれうりひんをとりみう郷　同
うさぎやうつじ山乃うすこう　同
ゆきてこの山てきさ川門郷　同
うりをのうきてこうりる　同
せのくこのこちやこうきねみ　同
下あのこうりそこく川門の　同
羽うりひこるのあうこへのれ　同

ようあこも岩頭ゆむこうりる　同
山宮りあのふうるのあこうり　同
御祝山吉田奥切
ありあてゆくあふをく川道る　同
を湯殿りて、
こうり先や野こうす釜乃酒　同
山麓のこうふこまぬこうる　玄仍
おも別宮浦之
山てこうえとあをこうの郷　同

お坊別山口瀧法師

ふるの名やあさうんの法乃あ　同

霰十

ぬさとあくあるまうたまのとくあ　義政

ちまて八ちんとうくあるまう郎　冬良

ちうしてふくあ形瀧のあるまぬ

そくくあうくくあ山をたまあれ　宗祇

むあるまぬちうくあ涙乃ゆきくうあ　同

ちくあ山まあ霰うあ乃ゆまあ

萩乃ちあるくものこんあるまぬ　肖伯

ふくあ山ちまのくまあくくあ蔦う郎　同

なくのくやとうくあるまぬ乃笠やくう　同

為敢法稽返善名号連歌

ゆくうくあもあくや雲乃弓玉あれ　同

丹生明神にて

ゆ雲あくあるまぬを神の山蔦う郎　同

くくくくやとゆ雲やとのくあるまぬ　同

日やとをしあるまとやとのやと　家頌
まをしの屋の霧と立のあらしかな　同
おろしをしてゆくを聞くあるまうか　同
玉のとを風のあさとくあるまうか　家教
くまこれのそのをてやとあるまこか　同
後とをの神よたまぬあるまうか　同
をしりや波をのさしの霧のるまこ　同
行の霧をくむやとをさうあるまこか　同
をのをのをわるまむをうやまこか　同

よるのをしをうしのをあるまこ　同
むをやをを風もをこうあるまこか　同
さをの霧のをやあるをひをあるまこ　同
夕月をとをふををむあるまこのか　同極
をしまやあるをさりの風のあるまこか　同
萩のををけを霧のをををうか　昌休
をの風のをのををんのあるまこうか　同

鷹狩の夏をて奥行

をををのをを吹雪風あるまこか　同

あらまほしかりぬやうやタ附白　同

但別おけ田家蔵院

さらまほしかりしかしかるか　同

ものやいとくるしくもたまる　同

ものは月ゆきてのころあるか　家類

秋とはいさかのあるまほしかる　同

ひろひ拾くれあるまこうの　同

あるまほしさしかくまのさあるまほ　同

ありかしかるくあるまほしか　同

ものあらまほしかるのあるあるまの　紙色

さくのくらやまのあるまほ　同

ものくりやかるあるまのあるまほ　同

さくらもあるまほしくあるまほ　同

くるはくあるのるまほのるまほ　同

むくらのあるまほしかるあるる　玄仍

むかしのうらをうるあるまほ　同

お田家蔵院

民の戸はけふりにもあまるみぞれかな　同

霙 十一

あられより音こそまされみぞれかな

庭はまさりて雪よりつもらぬみぞれ哉　賢盛

みぞれしも庭をあらしにかへるかな

さらぬたにきゆる雪ゆへみぞれかな　宗祇

あさぼらけ庭はみぞれのあした哉　同

夕されは松の葉しろきみぞれかな　肖柏

みぞれしてむら雲白し夕月夜　宗碩

ふるみぞれせし梢の雪や夕嵐　同

みぞれせし庭や落葉に霜の露　宗牧

こほりさへやみぞれてうつる月の庭　同

山里にみぞれとゞまる梢かな　同

夕日影きえてつもらぬみぞれかな　同

山かつの枝にみぞれて朝日かげ　周桂

空はみぞれとなりぬ雨の水　同

みぞれせし落葉の後も宮の庭　昌休

田給庄毛面張法師高弟

川のこしらえ　高弟朔てとり　同

雨りさうく高弟みそれ乃鈎戸八　宗養

あはんをとらえて高つまる高八　同

月うすこそれあらしあるこ高八　同

山垂乃夕風高つむ高八　同

月ゑつき高やこそれ亀の松　同

高りんこそ松乃こ高つき高八　紹巴

松乃高のうす高つきみそれ八　同

みそれをしあらぬ月のあさあり　宗仍

發句帳 冬部 下

題

雪 第一
殘雪 第二
水鳥 三
煙火 四
神樂 五
梅 六
冬月立春 七
冬籠 八

雜冬 九

冬

雪 十一

山や雪さそふねもかくこそやこうの郎　心敬

雪うすく萩すゝきやうつろふ秋の風　同

そめうすく時雨やうつるまつの色　同

雪ふれば山里ひとつこそやこうの郎　同

風おろす山松あとしく萩すゝき　同

雪は里に残るとうつるまつの郎　同

[illegible]　　紙巻
うすゆき　　書頃
雪をしまとはうへとけるかの庵　　同
とゝ紙やうに雪ふるもの　　同
雪の間秋ぬ雪をとゝる風のちらふ　　同
ふるくもれはうすゆきのとゝまるく紀　　賢盛
やまのそらはゆるゝ郭の雪をふる　　行盛
雪乃雪をふるの彩雪をかたりかゝり　　同
紅葉をぬ秋をとゝるみゝ雪乃松　　宗砌

雪乃雪をとゝふりの雪乃雪　　同
ゆきをれをふるゝ雪をとゝ郭　　同
ゝゝゝゝゝゝ雪乃夕ゝれ
ゝのゝゝりはをれをゝ雪乃雪
むゝゝて雪ゝ雪ゝ梅をなゝ
ゝゝ雪ふゝぬ日つゝゝゝゝの郭
雪はゝゝ乃ゝす雪ゝゝゝゝゝゝ　　心敬
秋をなゝゝあゝ紀雪乃梅ゝゝれ　　同
朔戸あをて月すゝ雪紀ゆゝゝ　　月与

こやこやたりみちの遠くよりの雪　宗長
とう雪へうすくふれる井のあたりかな　房嗣
大内乃山さくしほさきの雪
雪をとりて風をしのぐしるし遠の雪　猪仁
ふるさとしぬ花をとる雪乃赤ゑれ
いつくもいとはへ雪れあしかりか　義教
ゆくさあ雪りやひろひとりか
花をとらくと雪のうつる風をう郭　芝遠
雪の雪うつくあくしかりか雪雪　房雪

雪をとれうまぬやまのをとう郭　改弘
ありそとをとるや梅つへ雪の雪　宵柏
あまり独ありくる雪れくのれ　宗伊
とをとうつくあくしかりかゆきうか
ひくと雪乃をとかのちをとをとまつ糸
雪をとをしをとをとうへくこの乃雪
ゆきをとくくあくしかりかゆきうか
をとをとや松ひくしほのゆきの遠
推乃葉ゆあくぬ雪みかあくしの

ゐまちたハ雪ちりまし深瀬山かな
時雨のち山ふかくりもとほくもの雪
谷風の雪ふりのわたりのふかな
ふりそむる雪さへあら紀の山かな
雪それてとるとも山さくら折増らん
落そろ花雪やちりかのあさ鏡
冬ハ目とふり清く雪はひかりハ
山かとうき雪も八重かな雲井かな
そうらん八雲もちるらし富士の雪

見まえ雪まちけれ時雨深山落ハ
けさこそろをとなりしき乃雪
水くみの山をとうすしみなの雪
さえそると竹霊様らの雪すう浦
山や雪末葉ふきこぬおもしろふ
やまのえとねつゝもしねるのこゆさハ
雪ふりて見ぬ山の乃あさ戸かな
そらひのゝハ山様の神や霜乃雪
都まてちろやそろ梅さ乃とも

雲乃雲間にみしかりしかの
なのまく

いくもしやまの朝くもり

月の雲

くもりなき月と雲とのひとりうの
月あはれなるもぬれ雲井うれ
身新と雲とうとくのこりうの
月雲乃雲れゆくあしあうれ
月とそひとりもちをとなの雲
うすとそ月やうとのうゑのゆき

山雲

ゆうつるとは白もひとうとの雲　宗祇
あはうとていつ雲とうんみなの雲　同
やまれやゑとうとの紀乃やまのゆき　同
とひくうやまのそふかうんうのゆき　同
雨とし雲れひうとうとのゆき　同
波とゆまとうとうとの雲れやまちふ　同
雲とうとうとくあとうとれうれ　同
雲とんゆうとをひうすとを格とうふ　同

まさごのうへの雪
くもゐなりけりゆやゆのみねの雪
ふりそめて雲のさそひの雪
ゆきはらふ山ちのきりのうへの雪
新たれて夕日やうつるゆきの山
月のひかりのうつるゆきの山
雪紅葉やいつまとまとん雪ぬやま
たるなのそやふりそめしゆきの山
うしろとそやらの松ぬ山

越の雪おりしきしに
庭にうきさめハ雪いくへあらしの山
流つゝゆきのうつるの雪の海
ちゝゆきふるあつるの山の雪の森
やまとけハ雪やあるの月ぬ
山のうへ庭にうやこの雪ふる
やまもいて雪ぬ雪ぬ紅葉
神の雪つゝきほとゝぎすふる

水鳥雪

みちのくにの山や雪にうもれんに
水のうへに雪をうつくしかるに
いまは山みちもしら雪にて
道をとけ雪をさそふ風のあと
雪はまだ川とこそ
みるやすらの色のあさぼらけ
みなかみの雪やあらそふ
ちるの雪乃中川をうめしるに
雪はそこやとけ行たるに

陰のうまし山松ちるかなこのゆき
やまとうまてふひとう雪にまつ
なこのうつる雪ぬとしらるに

海色雪

雪ふりつもるかひなきあさかさ
雪のうへにいつまでかそふ
ゆきやたえ松の緑のこの雪
雪はまひらるこすちひらに
雪やうちのそのに松

月前雪

あしたまさうす雪あり月の庭　同
月のうらうすゆきそめあれ　同
春のこりうとを雪まのあしたかな　同
月ととも雪とそねたるひとりかな　同

松雪

ささちまねちらや雪絵すいのを　同
雪やしふかきちらの雪の庭　同
雪やれ松やそらひの松さ　同

ちらつるとをふかうや雪の庭　同
雪ふりあるやあらの雪の雪　同
あるとちんくんの松をゆきなし　同
雪ちれて松をちるあしか　同
ちつ雪ケ松乃景ふあしき嵐ル　同
乃こを雪ちれのすさきちひの松　同
雪ちの絵ちちのあしに宵乃松　同
ゆきちすあとふくちちゆきの雪　同
つちれ雪ちちちみちある宵乃松　同

ゆくすゑ行末をあらかじめ
知るべきものまつ乃を
とゝまるべきものゝいとゝそゝれ私
ゝ者ゝんとゝるゝ行さを
ゝ者ゝ乃私
ゝ者ゝ行とゝんよゆくさの私
ゝ者ゝ
こゝ者ゝ者ゝ私の者ゝ
ゝ者ゝ者ゝいとゝんゝを
ゝ者ゝ者ゝやひとゝ私
ゝ者ゝ者ゝ乃私の者

ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ人のゝゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝを私乃者
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ

竹宮

ゝ者ゝ者ゝひとゝ者ゝの所
ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝの舟
ゝ者ゝ者ゝ行ゝ者ゝ者

[illegible]ける[illegible]の[illegible]る　同
ゆきのよれ竹の葉とうる鶯[illegible]ふ　同

雪と

[illegible]ゆきの物とて[illegible]ふ　同
[illegible]ぬりみちの郭　同
[illegible]秋のちしわふ　同
[illegible]雪のこと忘れ　同
[illegible]雪の声　同

雪[illegible]柳[illegible]ふ　同
[illegible]　同
[illegible]風[illegible]　同
[illegible]雪　同
[illegible]ふ　同
[illegible]雪の[illegible]　同
[illegible]雪の[illegible]れ　同
[illegible]ふ　同
[illegible]　同

かぜたちくるやこゑあつく雪の山　同
ふりしきるひとへ雪の末の雪色　同
春やいつまと雪のゆめしめさみとり　同
雪とれて名ぬひとつ紅こそ色　同
名も残りしかりの雪の紅一本ふ　同
とりの雪とらねとゆめ入る　同
こゝろかん雪よりつゝ乃沈とる　同
こゝろやんけしの宿の雪　同
ふりしきりしに

はつこひ　雪の雪まつゝやこゝに　同
やまちまいくしの色乃雪　同
世とし名やけこれ名つゝ本ゝ雪　同
まつこの色のまもし雪の声　同
雪ふりてのこる
こゝろあこねつまやうゝ雪の宿　同
雪ふりゝ又こゝろの玉乃ちりもふ　同
あつ雪乃こゝろつゝ紅葉　宵柳
櫻花ちりて

ちるもみぢ　ながめたはけまの下紅葉　同

ふる湯山にて家綱家老三人を

連奇

うすもよ　本紫いろこき山ざくら　同

あらしの山　嵐のやとる名月　同

雪ハ降　くちなしハ唐の梅　同

乃ひとり　ぬれしぬ乃ぬ人ハ　同

たちくるとやゆく雲の雪　同

人よりて

いとこ　雪ハ降　雪の雲　同

なまこ　山乃ふる山　同

ふるしら乃雪　ふる雨　同

住吉にて

中こ　雪ハ降　小野のうの花　同

雨ふ乃ふり　平正敷　同

雪ふ　ふる　紀海氏　同

住吉　くの

うすもふ　ふる　松乃ふる　同

風をあつめて初雪うすみどりなる水のまり　同

慕東元親亭にて

さえわたる月とやみるらんぬれぬれの雪　同

ちりて花さくやなほ未ふきされる雪　同

ゆくえ〳〵うもれぬるかの雪　同

風のうへあら雪ふりしきりつゝ　同

よるとなくあるやなほ雪ふれむしろ　同

いとゞ松山なほも雪のとゞまる哉　同

慕東正樹亭にて

ふるうり雪乃声きく高砂の邨　同

正盛亭にて

ゆきとなるあるやなほ雪ふれる　同

長閑にて

海ゆくてゆきはなほ雪ふれるかな　同

ふるてんてんやうす雪ふるまつ　同

ゆきをいとうるうるの人のもてなす

雪ふるてゆきたるあるのうるぶ　同

さやかにぶりうひとてて

物ひとりうちうちにて稽古せし歌
行やうにて書てゆかたの方乃ちかの義
を以八乃字揚悔のまことよ
あらうを書て公方の死うりの事
十月一日能登にあて
社てうん所ゆあんけの書 家願
八幡ちう御ちやちう書付
と勅てちうあまめうを秋乃書
賀別りて

同
同
同
同
同
同

芳年ちく
いたちくひとを書乃やまちう
数賀りて
書とのをて社ちうゆくあしう
涙松乃ちうれ書ちうゆきちう歌
遊書名号ゑ句いちと
いうちんちうせていたと勅乃書
ちうちう乃ちゆ句のちなと乃稽さ

同
同
同
同
同
同

しら鶴乃雪よとまかふあしたかな　同

山さふかみさとふかみ松にけさのゆき　同

さくらのちりしかや桜之雪のはな　同

松のもとゝもとの雪乃あさ汐に　同

下枝よくおもし竹も宿乃雪　同

ゆねふりいつくもかり乃こゝのゆき　同

ふるやこのまに鶴えしこのとみに乃雪　同

いつもしろ雪よ志ろきやまさくらに　同

二葉より雪をかさねし中のまゝ　同

みるあとも迄見てふもとの白鶴乃雪　同

　九別の人恩別り

舟出やまの江乃こや途の雪　同

書よそこおしとそふ深雪に　同

跡残乃手向してかりまき乃雪　同

ゆきこなる人まつしかり途の雪　同

　心も下向人餞別よ

雪の鶴風りいてゝむやまちの郷　同

御新法示り

ぬさとりもあへず山
いつる日乃河とそうし　猪名部
ゆさまの山や世とをてゝ小雪乃　同
ふるさとゝいく世雪乃松　同
ゝ色りなる雪乃山路乃　家野
松風乃雪とめくるすゝゝ色乃　同
雪とふるてゝなる乃ちさゝゝ乃　同
ゝ月乃うゝりやいゝく宮乃女　同
雪いくへあるゝ牧乃こゝ乃　同

月雪乃あゝひゝ乃ゝ乃ゝ乃　同
あゝや雪ゝゝ乃ゝゝゝ乃ゝ　同
ゝゝゝ乃雪ゝ海ゝ乃ゝ　同
雪ゝゝゝゝゝゝ乃ゝ　野戸
ゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝ　同
雪ゝゝゝゝゝゝゝ乃雪　同
乃ゝゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃　同
ゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃雪　同
ゝゝゝ海ゝゝゝ乃ゝ　同
神ゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　同

そらゝ雪乃花の春の光朝あけし　同
梅さくらみなうつろひぬるとは　同
雪とこそ春の光乃ときの花　同
ありそうみやいつこまれる雪乃遊　同
こゝのえのとゝゝふるゝゆきの花　同
なつかしうちんゝ山のそとの雪　同
ひとゝとし雪とはゆきの沢乃ゆふつゝよ　同
そゝやさゝゝろの沢もとゝの雪　同
山風とうゝゝ雪乃春の夜　同

雪そ花ゝゝ春乃ゆふつゝ　同
まゝ雨とゝさゝゝ雪のやうに春　同
ゆきとゝ春ありさけゝゝ乃雪　同
雪とゝし春ゝゝ乃ふりに　同
さゝ乃春ゝ雪乃ちぬゝゝ　同
みゝゝゝ月ゝ雪の春ゝゝれ　同
ゝゝ雪ゝゝゝゝゝゝ春の花　同
ありとゝゝゝゝゝ春の雪　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ雪やゝ　同

花よりもあとにのこるはその雪
雪のうちの空さへ春のかをるかな　同
ありなしの雪にやうつる春の山　同
見るうちのかすみの色の色にこそ　同
海風の雪やあらしにとびくらし　同
都にはいまだ雪のゆきかへる　同
錦の春なりけり桜さくらの　同
雪のあけぬ雪はまだ春はあけぬ　同

野辺の雪中坊

みちのくに生ふる花の雪ぞ井のうれ　同
春風のさそひも雪のやのさかり　同
あり明の雪にうつりのその春の景　同
あり明の雪の月とともにぞ　同
とをやまふかうやうの雪の遅雪　同
雪をちらすやうの花ぞりの　同
海山の中まで春の雲　同
雪ぞ春の秋やうの色にてうすく紅葉　同
ゆきしらのその雪ぞうの雪　同

降ちらすゆきあはせの
ちらすやはつかの人乃と和の雪　同

十月

雪ふるそやゆきよりはつしぐれ　同
ふるとしらねゆきふるやこゝろ　関柱
雪ふるへのわさ白たくふ汀うれ　同
けさの雪ふるさとにちるふる　同
そらや雪紅葉乃ふるの葉ちり　同
つもるとしりつゝちり松乃雪　同

しら波のまのそうゆきのし　同
わすれぬさゆきふるすゝ乃ふる紅ふ　同
うもるそよこゝやこゝの雪のゆふ今　同
ゆきやちるゆきとゝ乃歌の雨　昌休
ふるゆきのひらくに花ふへう邪　同
うもるゆきゆきもあるゆふ乃ふ　同
松乃雪ふるゆきの乃ちるゆる　同
なのあるいはくらふるゆ孫ふるの雪　同
ふる白ゆやうるり邪のふ乃雪　同

いつとなく雪のとけそめし　同

餞別として西堂

あつりわまやうの名りの越後の業平雪　同

敦賀お御新堂

雪とけそめしちへよりそれも春よりは　同

雪乃雪とけそめしとつもれるその雪　同

延宝四丙辰年

はるそめて雪の移とくらしちのまの　同

庭の松なとわるとなりて

庭のみむとそれのとくとひとくとけ雪　同

まちとくとくとくとあるとけあるとけるとし　同

御のとく雪乃雪乃羽奥り

雪とすーちるやわるとくとの松　同

乃本丹後国奥行

つとくとくとのあるとあるとの雪乃行　同

竹田安積第流雪て

まとの雪湖戸と第のあるとくとの郎　同

下わるのあるやちとくとゆきとの庭　同

情別（まうり）越後法神子細入道
高うて蕨一杯乃ちよ
はと程と宵のうちやまちの雲に月
雲らしてのちの山のあらしの乃梅さ　月
船中行程とて
ひとと釣舟りつむ雲れふるまちふ　月
雲ちつうう迄とや雲をまちの夢　月
唐船乗朝法ふ
かう帰りてあるやうの乃雲　月

ふ句遠ち雲とて
松風や雨ちとちうりゆきれ亀　月
花や雲あの乃ちとうら乃波長　月
更ねあり雲やうれまのさ乃し　月
修そむうと釣ふ雲乃うふふ　宗養
雲ちれてあの乃月時夜釣白ふ　月
川波もうひとす雲れあさ戸れ　月
うう雲八ふ雲ふ雲ふうさ釣白ふ　月
雲ち月ち遠松ふりうう朔嵐　月

たゝ山末の中に名ゝるしゆきの雲　同
あけぬるしるもとむまつ〻ゝ不見雲　同
雲や白玉ゝ〻へ〻なきこゝろの雲　同
うす雲よ花を根ゝ〻へ〻ふ雲ゝふ　同
雲に生ゝ雲ゝたゝせ乃二葉ゝれ　同
ありゝへ梨雲とやゝうゝむ雲乃行　同
雲ゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝまとゝゝゝゝゝゝゝゝ雲乃雲　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同

あゝ川のゝゝはゝゝゝゝゝゝゝ瀧　同
つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同

山雪

瀧の雪ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　紹巴
ゝゝ雪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　同

うたへて弱戸やうの
山や宮ゐとれたつくの
あとと川きとれあう本宮うみ
さとれやとゆとれふうみち絶とあ
せとふうや宮のとやとのうとれ声
ととと山の宮紙とあう彩燈の郭
宮りゆてやとりりれりとやまあ

夢想

風をとあり山の方あ一の宮

戦とりをやとりとく宮元とやとれ
山や宮ゐとさとうへのとととと
やとしくもとくなう乃とゆとれ
夜とと勧宮井とうとく宮の山
宮乃戸やあまてもとうん宮乃交
とやとあとたくう弱戸や宮の竹
自くとゆう彩とへあく宮元嶽
とととうとや山病あまとく宮元神
竹の葉乃とうくややとうとの宮

清の声聞ゆ　同
あらしの音あるかぜ　同
山くとすもとよりかゆきの庭　同
雲をたゝ雪ふんやまちう郭　同
とさふるもの　同
山ちけ一地ちめやも雪のこ　同
物くん人の屋やとみちよこの雪　同
やまうちの雪とうくちくこやこう郭　同
うやこさんとありつうあこしの山　同

雪ふりてとゝ河うう郭　同
とゝまの雪ふるつのとまふ　同
雪ふりまけ箱のうちよこの雪　同
雪よとあこさくよさ紀ちくその雪　同
一ちをうん郭一雪のこゝとのふ　同
雪ふりぬそ雪の日ふうき物ふ人ふ　同
うこ雪ふやハ一末の雪ふりふちう　同
やふしふ物ゝを雪のこあちうふ　同
初雪のこうあるほうあるとく紀ふ　同

ちるもみぢくうのせうか　同
雪をとけさとをもふあれ　同
あををとるかのしもをよ　同
雪やちるをとふやまのう　同
ちをましぬ今ちるうんゆきのとも　同
雪のうちをくなる所のうをかう　同
をつ雪のをしまをぬ人のゆくをる　同
ゆくををぬちるをんゆきの道　同
よのこをを雪のうつゆる雪ふへうか　同

雪秋よをのひとををや雪をのを　同
あのひをあひく一月かや雪の所　同
月雪をを雪をまををひをりうか　同
初雪をうつをををぬりをちうか　同
こををとをくををををや雪れ雪　同
をつくををちをすをや雪のうすを　同
雪ををつまをを風を園へをやこうか　同
をしくをとをを雪ををのしをを　同
雪をををを雪ををれををやあをを　同

ゆひそそひて振と野とや雪降り
とゝまの雪やゆ秋毎乃こゑつゝ
り雪やゆ紙雪とゝ乃ゝろ絶ゆ
て地もひゝろゝり雪降ひゝりうふ
うゝり雪やゆ雪くゝ紀乃松の雪
家くゝも野ゝゝ雪降ゝゝゆ野
ゝゝ人のゝ雪ゝゝつまてゝ雪降人雪
雪乃家乃松ゝり雪降ゝゝゆ乃野端
雪降人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆゝゝ乃雪ゆゝ雪降ゝゝ乃ゝゝ雪
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

あさぢはらやうつこやまぢの雪　同
なくらけんとも雪ふりあるくらゐとあり　昌叱
松乃葉の雪やこと葉乃ちるを絵　同
ありうつむ末をとる雪の山ぢのうち　同
とさとそ末をとれと雪乃高ねぶ　同
うしやはく雪ふりとあるとも朔の雪　内
波のうちもちるつゝ雪ふりうゝかう　同
つもれるとをそやとりの雪　同
ありそうゝゆくてゝん雪ふる音　同

波山茶も雪ふりしの若葉のうか　同
雪にさうとそ見とこと思ふ　同
ふり積ぬと雪さうゝ雲のうちうれ　同
さとひさて風のうちひて雪乃竹　同
ちうれよあうゝやあ　むとゝ鶯の雪　同

ひさ天をふて

雪ふけき野ぢ乃あんこうか　同
ゆきふ竹をひさ起ぬうをとあ　同
起ぬうゝさむうゝさうや雪の花を　同

行燈よ

[illegible] 同

[illegible] 同

心為遠者

世[illegible]とあて[illegible]と雪の夜 同

遠者[illegible]

[illegible]世[illegible]あり雪のあ[illegible]たふ 同

うす雪乃ひゆく私乃あ[illegible]ふ 同

雪[illegible]て[illegible]さ来[illegible]れ 同

小野一[illegible]山中山城雪

お[illegible]層[illegible]葛城一言主神也

かつ[illegible]乃神や[illegible]ん[illegible]の雪 同

苔乃[illegible]乃[illegible]ま[illegible]雪[illegible] 心為

[illegible]雪[illegible]ふ 宝仍

雪[illegible]ふ[illegible]雪の声 同

[illegible]

ちり乃世をうら[illegible]あ[illegible]ふ 同

お[illegible]別心口

[illegible] 同

長門萩新城の舎より

[illegible] 同

美濃別宮杜[illegible]

[illegible] 同

お越前

[illegible] 同

猿屋 二

[illegible] 宗頂

[illegible] 同

[illegible] 同

水鳥 三 付琴[illegible]

[illegible]

[illegible]　宗祇
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　肖柏
[illegible]　同
[illegible]　宗牧
[illegible]　同
[illegible]　同

[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同

夕波たちくる秋の月の影　同
あらしをもうつす宮の森の色　同

新嘗祭

月やどる玉ぐしの露の秋の色　同
風のけしきもたのしのぶの浦　宗養
みるめなく浦のとまやの秋の月　同
うりこやみのうへゆくさしの月　同
うつるとしの夕日やどるたちばな　同
夕ちどりみのうへ引くうりの郷　紹巴

とりのあゆこ家をれる稲さあり郷　同
さくやいろのそめぬ中の女千鳥　同
あらしの月よりうつる鳴ちどり　同
おくるとあるさとあるさと河を変衛　同
嶋風や波のあくさんうちとり　同
とりの声やうつるさとりさとる　同
歌やまこ波まこ阿を河ちどり　同
さつまもりひよりの村郷　同
ちどりうつる波のやちどり　同

妻たづねるなく蛍　演舟　同
あれはよなくこゑあるかの　さゝ蟬　同
たゝもらす敷うきもむる汀の蛍　昌叱
さゝもらす月のうへ樹くゝはゝ　同
下商が色法師の名乃あり前法師祝
ひゝきとて不覚
ちらるく影やゝはの音の海　同

燈火　四

燈火と見するなく寄乃あさ戸氏　宗祇
うつゝひ乃うゝえ柳ゝく影湯ゝ　同
うきゝ法師燈火法くもむるゝ　宗鶴
うつゝ火ゝ法師ゝ寄ゝ色　同
燈火ゝ　昌休
遠ゝ法師つゝ色ゝ
うつゝひやゝの下法師ゝ　同
燈火ゝ寄ゝあひゝ　宗養
うつゝひよひゝく夜やゝの　紹巴

戸さしまねうちひらく雪九行　同

神樂又

うちふる雪や星とあつまる松の雪　宗祇

雪をてらすの月うちふる君の御　聽雪

うちふる雪乃こてくらゆあしひ　背柏

さゝら雪や万代のこゑこゑやさ　宗頓

さゝ雪のうちうちの榊の御　宗牧

むらゝ雪乃雪とゆゝしかる　同徒

うたふこの雪乃しるきをねるか　宗養

霜よりうちうんそ乃神くら　紹巴

さゝうちうちの雪乃むもれる　同

くも酒うちやあしさの神楽　同

ちゝはゝうちの人のうちやうあく　同

物のうちうちやうれさあくら　同

里人も声そうかりかんくく　同

岩戸物しゝうちうちのさゝうく　昌叱

夏梅 六

春こそ梅もうれ行乃ゆきのまと　紙巧
みるさくやひとゝあるこのう免のそれ　当順
雪ふるく梅乃花ゆきとまゝ　賢盛
花とみて梅乃雪とまがへつゝ
ゝやまこ一ものうけるやものう免　改弘
まこそひとゝゝ梅う免乃こゝろ人
梅そさく今ゆくあるゝ宮方のまこ

そこ乃間のさくゝあのも一まゝうゝ
あゝまこもこそゝゝは梅乃花　家稚
一花とゝあゝまこゝう免のさゝりうる
ゆくゝもあゝゝやのこゝう免乃花
雪ゝりゝゝゝ江のこ宮ゝ梅のも　同
まこそさゝゝまこゝゝ梅乃花
さゝゝまこまゝゝゝと梅ゝ毒のも
さゝ梅ゝこゝゝゝゝゝゝ免乃花
人まこゝゝ梅そさゝまゝゝの梅

行とし暮むれば冬ごもりする乃ゝ声　同
雪やむれば冬のそらぬまくもり　同
ゆきふるのゝさらせてやゝかんむめの乃ゝ　同
雪ふり初ゝとゝ鶯乃ゝあるうれ　同
ゝとゝ雪のさらむれの乃ゝ　同
むれさゝめゝみゝとゝほゝぬ行う乃　同
冬ゝまゝ乃ゝ行ゝうむれのゝあゝまゝく朋ゝ
ゝゝ
ゝゝゝ

ひたすらけんとのあるよりそう　同
のうんていとせとそせ宵の雪　同
まはへうあされ極月うんちるれ雲　同
雪さけとみ雪まあとむうさよう邪　宵柏
山極うき雪入江とうたんとうれ　同
物うそまうてさけやちるれ多　同

小野さして

あうとうとさきとうちゆけ雪の毛　同
雪とひたすりひうむみ雪うる　同

うきとうそうたうむたうる毛　同
雪ろうふうてうのうひれ　同
ひうくうすうまう物ろ毛　同
あたやうちうおうたろ中のひたん　宗須
うるうみうひたうくひうの夕月和　同

十二月晦日よ

あうひうんうるや行人中のひたん　同
みうんひたん神うとりうるひうる　宗牧
うりへ雪うちうんうれろ雪毛　同

みちくしのもとにひとりゐる　同
ちりぬるをくさのうへにのこりたる物のもの　同
みちくさのあしやくさのうへ　同
雪のむら消ほの光りたる朝戸かな　同
いくたびかふるさとの春をむかへ見む　同
みちくさの光りをおれるまひれ　同
うつせみのうの光　同秋
雪のさくらむかへ一茶のうの光　同
古きのみぬやいろ春をまつる　同

十八

こゝろ強つきまちくむ光乃こゝろ　同

十八夕べ

ひとりとさけまち月をまつ神無月　昌休

ふるさと

物ごとに光りよりとあまたまつ　同

同

ちりさくも稲やと一番ひかりの光　同

さくらひとしきりのこゝろ嬉　同

宗物ゆりまつむ風をまつて牧ん

元七無り

きれいなこの一りやむえんの事　同

但別より砂糖あるいは龍脳坊主て

ちりめんまちまち中の方ふ　同

特別小清あるて塩田若別彩色

されてあてちりをとくを穿の物　同

糸とき書まりひいむえんの方ふ　同

きくの屋さくもあり方ふり物の花　家鶏

ちりちりんあるとくて穿の毒　同

みてて物風ちりちりせんきの　同

ふ毒てきしりふむめの方ふ　同

はんちちて物ふまちりんきの　同

きく雑ふちりせちりむめの方る　同

きちりんちんハちりの方物ちのむえ　紅色

物くちりもむの方ふそのくむえ　同

みちきくやちりちきん人のゆの毒　同

きまちねやちやむめくれちるふ　同

きくの方ちくりんてあちれ物　同

みちとせのふるさとうん花は　同
しをれんうどもあくやみ雪の風　同
山桜ちるしれあるやもめ　同
まつりあうんあるやものの名ち　同
物ゝ物ちる物ちるあるとうん水　昌叱
ちるあるやみぬ宵の物　同
物ゝまつあるゝ名ちあるゝ　同

山陰遠言

みちうまとあんちやゝ木の物の花　同

みちくやとちはるゝきのやの毒　同
ちとちまつり物ちくみ木ふ　同
まつり物みちあるりとちまう水　同
あ極さくやまつ物ゝ物の毛　同

年内立春七

物ゝ先あとまちて後の花　増宝
物まちゝみやうゝみんちあ毛　宗祇
まつゝて物のゝりあゝれ　宗頓

[illegible] 同
[illegible] 宗物
[illegible] 宗義
[illegible] 同

宗暮 八

[illegible] 行助
[illegible] 宗義
[illegible] 宗祇

[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同

[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 宗頼
[illegible] 宗牧
[illegible] 同
[illegible] 同

[illegible] 昌休
[illegible] 宗頼
[illegible] 同
[illegible] 紹巴
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 同

あらしをとはてしあるこゝろ　同
初しものよもとくうなるうめ花　同
うらうはゝ人さそはれぬ春雨　同
時雨ぬきとゝ初りひとりん人もなれ　同

雜冬

松乃葉ハ霜ハ紅葉乃葉ハ紅ゝり　心敬
面をとゝ所つくを香くのさそひける　賢盛
月ゝ紅ゝすゝきとゝ所ゝ　同

世ゝ人ゝとゝ所ゝ乃ゝ所ゝ
所ゝとあてゝ人ゝ也ゝ
山ゝ里ゝ人ゝとゝ所ゝ
ひとりゝ所ゝ人ゝ
うゝゝゝゝゝゝ
冬ゝのゝゝゝゝ
源ゝ山ゝ
ゝゝゝゝ

酒とりてあゝひゝ一人の家ゝ

家綱　同　同

風をきけて庵をとゝのへ　同
冬をとゝ一ゝ　同
松をきそこうつる　肖柏
さしちりやあとをとゝのへ　同
紀伊国よりゝ海ゝ眺望
のこゝ自をゝ　同
新発意
あるあまを風やあらしの冬ゝ　宗碩
冬の夕ゝ

おもとゝ　同
みをとゝ　同
行ゝ　宗牧
冬をとゝ　同
ちゝ　同
あゝ　周徳
金福寺新芝房
中ゝ　昌休
ゝ　宗養

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

うそつきとちりそめしとき春の日に　同
みそらに松のおもかげ空方のあらしの外に　同
さらしとなして松のひさんもうを聲うか　同
みそちねちろの中やまとうやまとうと　同
ときうの東の中やさあらうまうみをうまうと　同
年の間ちうまうしろ松の色　同
みそこちんちうちんちうみうちんちうみうと　同
初春をうみをちねうまうるこまうの　同
まうのてまうやうちうやしまくの色　同

きをあをみをやひちうまうの色　同
みをうれをちをうまうのこをうか　同
小倉山のちうをうの松のこをうれ　同
春の色のこをひをしの色の聲の邪　同
小四の日の陰沼をちをうか　同
まをまて一まをあしの色のふをうを　同
みをうを色の色をうをれをさを色をうを　同
石をうをを松むしの色の色の聲うれ　同
むの色をうををむをうをさを色をう邪　同

○冬下

[illegible] 根をこめまきつけ [illegible] 同

[illegible] 種乃さ者にまきこまれ [illegible] 同

[illegible] 八月四日ひくいるとう邪 昌叱

[illegible] 同

[illegible] 依世長刑山[illegible]て

[illegible] 風を角ひくるとう邪 玄仍

於大坂

[illegible] 同

[illegible] 八世乃ほうとう邪 同

[illegible] 山のとうさい邪 同

寛文六稔仲秋吉旦長尾平兵衛尉刊